

東京経営者協会との首脳懇談会を開催 コロナを乗り越え、会社員が夢のある職業となるために取り組む

3月25日(木)、連合東京と東京経営者協会は、春季生活闘争における考え方や課題認識を共有する首脳懇談会を開催した。昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催できなかった（要請書提出のみ）が、今年は感染防止対策をとりながら対面での開催となった。

冒頭、杉浦会長（連合東京）と小川副会長（東京経営者協会）から代表挨拶、2021 春闘要請書を手交した。

杉浦会長は挨拶の中で「3/17は集中回答日だったが、産業により状況に幅がある中でも対応いただいた」と回答結果に対する認識を示し、昨年に引き続きの賃上げ、テレワークなど働き方への対応、公正な取引の推進など要請内容への理解を求めた。さらに、コロナ禍で新卒採用を控える動きを懸念し、第2の就職氷河期をつくらぬよう協力をお願いした。小川副会長は、回答結果について「コロナ禍で先行きが不透明な中でも、各企業ができるだけ努力をしたと認識している。業績が厳しい企業においては、雇用と事業活動の継続が重要」と考えを述べた。また、ウィズコロナ・ポストコロナにおいては、エンゲージメント（働きやすさ・働きがい・貢献）の向上が求められると考えており、そのためにも労使で知恵を出し合っていきたいと協力を求めた。

代表挨拶の後、斉藤事務局長（連合東京）から要請書の内容説明、川本専務理事（東京経営者協会）から春季労使交渉・協議に対する経営側の考え方について説明があり、①回答状況、②雇用維持、③新規採用、④ワクチン接種、⑤エンゲージメント向上などについて意見交換を行った。

連合東京は、今後も経営者団体と定期的にお互いの考えや課題認識を共有しながら、この困難な局面を乗り切り、会社員が夢のある職業となるよう取り組んでいく。